

わが国におけるレクリエーション学の体系化に関する研究

レクリエーション学教育を中心として

話題提供者 藤本 祐二郎(日本体育大学)
 高橋 和敏(東海大学)
 田中 祥子(津田塾大学)

コーディネーター・報告者
 松浦 三代子(東京女子体育大学)

わが国ではレクリエーション専攻コースを持った大学はいまだ見ることはできない。しかし日本レクリエーション協会を中心にレクリエーションリーダーは実際大量に養成され、それぞれの地域、職域その他いろいろなところで活動を行っている〔I〕藤本先生には、戦後いち早くレクリエーション学科設立を試みるために努力されたが、その実りを見ることなく社会体育学科の名称のもとに文部省より認可を受け今日に至っている日本体育大学のカリキュラムを公開していただく、また〔II〕高橋先生には、仮りにレクリエーション専攻の学生が卒業後どのような仕事につくことができるのか、すなわち職領域の予測とその可能性について、〔III〕田中先生にはアメリカの主要大学におけるレクリエーション教育の内容を明らかにしていただくことにより、わが国のレクリエーション教育の可能性をさぐる一方今後のレクリエーション専攻コース設立の手がかりとしたい。以下各先生方の話題を要約する。

〔I〕

藤本祐二郎

昭和40年3月16日体育学専門分科会主査鶴岡英吉氏より大学基準等研究協議会会長宛に体育学関係学部設置基準要項が報告された。その記の中に「最近のスポーツ、レクリエーションの興隆にかんがみ、体育学科にレクリエーション専攻を置くことができることとしたこと」と書かれている。

日本体育大学では上記の内容から昭和49年レクリエーション学科増設の申請を文部省に提出はしたもののレクリエーション学科の名称は認められず社会体育学科として認可を受けたのである。我が国では大学設置

基準を度外視して大学を設立することは不可能である。参考までに要項に記載されている学科目、授業科目でレクリエーションの文字が見える部分を紹介する。

※体育学科一学科で組織し、体育学科に体育学専攻レクリエーション専攻を置く場合

学 科 目	授 業 科 目
(1) 主要学科目として開設するもの	
レク論、体育史	
体育原理、管理	(スポーツ、レクを含む) スポーツ、レク管理
体育心理、社会学	体育心理(スポーツ、レクを含む)
体育方法	体育社会学(スポーツ、レクを含む)
	スポーツ、レク調査、同実習
スポーツ、レクリエーション方法	レク教材論及び指導法
	ゲーム、ダンス、野外活動実習
(2) 関連学科目として開設するもの	リハビリテーション

上記のものはサンプル的なものであるが、レクリエーション専攻コースを設立する場合には有力な手がかりとなるであろう。これは如何せん昭和40年に作られたものである。この間に国民のレジャーに対するニーズ、それにとまなう社会的要請も変って来た。要するに専門指導者を大学でどのような方法を持って養成に当るか、問われているのである。

大学基準協会は昭和22年新制大学発足の段階にそれに対応してつくられたものである。日本体育大学では新しい時代を受けて行くために提言のかたちも含めて

昭和54年2月20日下記の通り理事会で改訂決定したのである。

※体育学部に関する基準

1. 目的 体育学部は、体育、スポーツ、レクリエーション健康に関する諸科学の研究教育を行い、それぞれの分野に関連する専門的業務並びに研究を行うのに必要な能力を修得させることを目的とする。

体育学部の目的が従来からの目的を受けながらも、向上基準はだいたい整備されて来たのである。

※体育学部における教育の実務方法について（昭和54年2月17日基準委員会了承）

体育学部における教育に関しては次のような事項に留意して実施することが望ましい。

1. 授業科目

学部は諸専攻により、学科または専攻課程として組織するが、その仕方については、各大学の定めるところによる、学科または専攻課程に応ずる授業科目を例示すれば次の通りである。なお授業科目は原則として実験、実習を含むものとする。

(1) 共通専門科目

体育学（含体育史）、解剖生理学、運動生理学、栄

養学、バイオメカニク、運動心理学、スポーツ社会学、健康管理学、健康教育学等

(2) 各専攻課程別専攻科目

1) 学校体育を主とする課程
 発育発達論、体育教育課程論、体育管理、体育測定、評価、体育実技、等

2) 社会体育を主とする課程
 社会体育論、レクリエーション概論、体育施設管理論、レクリエーション指導法等

3) コーチ学を主とする課程
 体育論、トレーニング論、コーチング論、スポーツ医学及び救急処置法、各種運動方法等

4) 健康教育を主とする課程
 発育発達論、公衆衛生、安全教育、学校保健、精神衛生、虚弱者、障害者体育、等

以上向上基準は変って来た、しかしながら基準要項は、昭和40年に作られたものでありきている。あくまでもその大学の事情にそって、独自性を発揮することを期待しているのである。以下掲載の資料は日本体育大学、社会体育学科のカリキュラムである。各科共通専門科目は他にある。なお希望者には、社会教育主事の資格に用する単位25単位も取得できるように配慮されている。

※社会体育学科必修、選択科目

区分	必 選	授 業 科 目	包含科目及内容	単 位	履修方法	開講年次				備 考
						1	2	3	4	
専 門 教 育 科 目	○	社会教育概論Ⅰ		2			○			
	○	レクリエーション概論		2			○			
	○	野外教育運動論		2			○			
	○	精神衛生学		2				○		
	○	環境施設論		2			○			
	○	健康管理	学校保健管理	2				○		
	⊗	社会体育指導論Ⅰ	リーダーシップ・プログラミング	2	1科目選択 (2)				○	
	⊗	〃Ⅱ	健康相談・体力診断・運動処方余暇指導・野外スポーツ	2					○	
	⊗	〃Ⅲ	カウンセリングスポーツセラピー	2					○	
	⊗	社会体育対象論Ⅰ	ライフ・ステージ体育論	2	1科目選択 (2)				○	
⊗	〃Ⅱ	心身障害者体育論	2					○		
⊗	社会体育環境論Ⅰ	屋内屋外施設論	2					○		

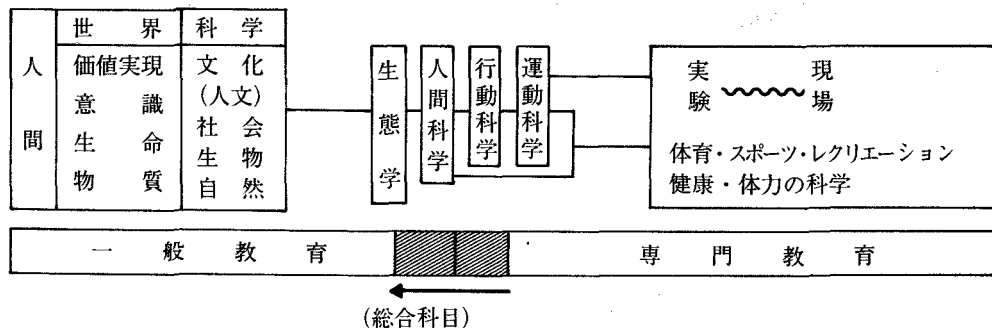
区分	必 選	授 業 科 目	包含科目及内容	単 位	履修方法	開講年次				備 考	
						1	2	3	4		
専 門 教 育 科 目	⊗	社会体育環境論Ⅱ	屋 外 自 然 環 境 論	2	1科目選択 (2)	○					
	⊗	“ Ⅲ	用 具 論	2		○					
	⊗	社会体育組織運営論Ⅰ	公 共 の 組 織 運 営 論	2	1科目選択 (2)			○			
	⊗	“ Ⅱ	民 間 の 組 織 運 営 論	2				○			
	⊗	社会体育調査研究法Ⅰ	社 会 体 育 調 査 実 習	1	1科目選択 (1)			○			
	⊗	“ Ⅱ	体 育 生 理 実 験 実 習	1				○			
	⊗	“ Ⅲ	体 育 心 理 実 験 実 習	1				○			
	⊗	“ Ⅳ	体 育 測 定 実 験 実 習	1				○			
	⊗	“ Ⅴ	衛 生 学 実 験 実 習	1				○			
	⊗	運 動 技 能 論		2	1科目選択 (2)				○		
	⊗	健 康 教 育		2					○		
	⊗	安 全 教 育		2					○		
	⊗	公 衆 衛 生		2					○		
	⊗	リハビリテーション		2					○		
	⊗	児 童 福 祉		2					○		
	⊗	労 働 法 規		2					○		
	⊗	労 働 衛 生		2					○		
	⊗	スポーツ・マッサージ		2					○		
	⊗	ス ポ ー ツ 心 理		2					○		
	⊗	自 然 研 究		2					○		
	×	社会教育概論Ⅱ		2		社会教育主 事の資格取 得のために は必修				○	
	×	社会教育方法論 (総論)		2						○	
	×	社会教育行政		2					○		
	×	教育社会学		4					○		
	×	成人指導及び 青少年指導		2					○		
	×	体育及びレクリ エーション指導		2					○		
×	社会教育演習		4					○			
○	体 操 Ⅰ		1		○						
○	体 操 Ⅱ		1		○						
○	陸 上 競 技		1		○						
○	水 泳		1		○						

区分	必選	授業科目	包含科目及内容	単位	履修方法	開講年次				備考
						1	2	3	4	
専門教育	○	球 技 I	バ レ ー	3	同時限にて履修	○				
		〃	バ ス ケ ッ ト			○				
		〃 II	ハ ン ド			○				
		〃	サ ッ カ ー			○				
		〃	ラ グ ビ ー			○				
	○	〃 III	ソ フ ト	1	同時限にて履修	○				
		〃	テ ニ ス			○				
		〃	バ ド ミ ン ト ン			○				
	○	格 技	柔 道	1	同時限にて履修 (男子)履修 (女子のみ)	○				
		〃	剣 道			○				
		〃	相 撲			○				
		〃	レ ス リ ン グ			○				
	○	ダ ン ス			○					
	○	レクリエーション実技				○				
	選 択 必 修 実 技 目	⊗	学 外 集 中 実 技	ス キ ー	1	2科目選択		○		
⊗			ス ケ ー ト	1			○			
⊗			海 浜 活 費	1			○			
⊗			キ ャ ン プ	1			○			
⊗		学 内 実 技	ゴ ル フ	1	4科目選択		○			
⊗			ア ー チ ョ ー	1			○			
⊗			野 外 活 動 実 技	1			○			
⊗			簡 易 ス ポ ー ツ ゲ ー ム	1			○			
⊗			卓 球	1			○			
⊗			野 球	1			○			
⊗		ト レ ー ニ ン グ 実 技	1		○					

※ 上記教育課程の外、各種ライセンス取得のための教育課程についても検討中である。

※ 学外集中実技についてはその実費を徴収する。

※運動と科学とのかかわり



体育学部全体を通して特に現在の体育学科の考え方は、学校における体育であり、人間形成のために役立つ教育の範囲としてとらえている。運動と人間とのかかわりを0才～100才までの生涯の中でどのように見て行くのか、教育の面と科学的な面との系列の中で方法を考えておくことが大切と思われる。今日体育学は学際的なものであるとも云われ、あわせてレクリエーション学も成立すべきものなのか、どうか、今日問直されているところである。したがって、これらの問題を考え、一般教育と専門教育の中で、レクリエーション問題が生活科学の中に入るのか、人間行動科学の中に入るのか、あるいは、運動科学(スポーツ科学)これらの科学との関係はどうあるのか、あるいは総合科目として、中継ぎ的な教育の方法はいかなるものか、分化して行く中である時は部分的に総合してみるというのもよいと思う。そこには人間のかかわり方が問われ、人間と自然、人間と人間、人間がつくった人間と社会、人間が長い間かかりつくりあげて来た文化、特に運動文化等、これらと何等かのかたちでかかわりを持ちながら生きて来ているのである。そのような意味で、運動と人間という形の中で例えばからだのしくみ発育発達、運動のメカニズム、あるいは運動の本質と発展というものを含めたものである。

※生の充実

運動と生活の中で日本レクリエーション協会「よろこびと楽しみ」の本がいつているように、レグは人間の基本的欲求であるという実験的学説を出しているがそのような中で気晴らし程度でよいのか、もっと発展させて考えると自己啓発であり、言葉としては生の充実ということであろう。

〔材料としては〕 目標としてphysical 的な方向へ持って行くことが望ましい。そのようなとらえ方をす

ると社会体育学科の方では、指導論としてリーダーシップ、それにとまなうところの国内における行政法規グループ集団の組織、運営管理、施設用具論、人間関係論、カウンセリング、グループワーク等をあげることが出来る。

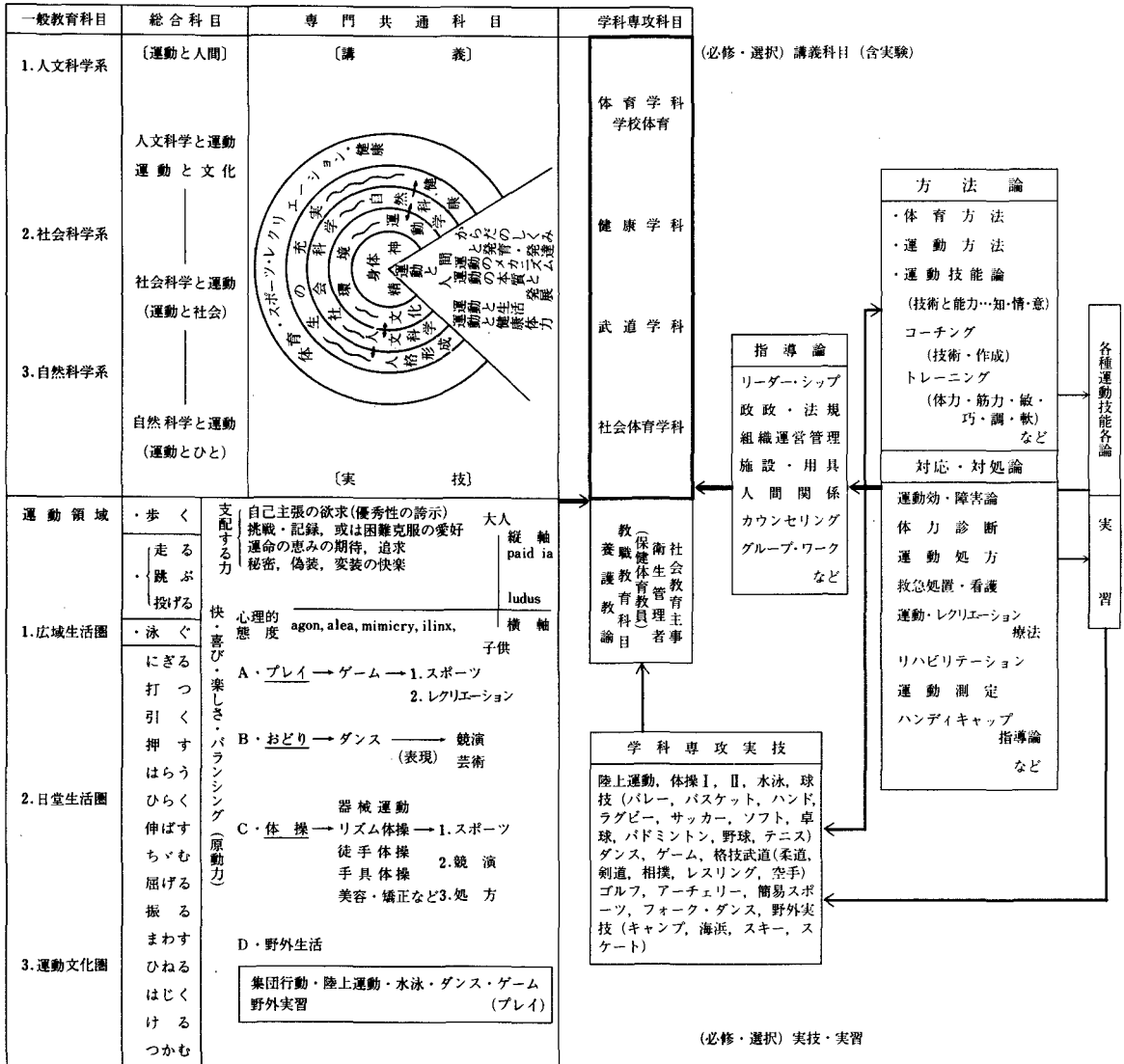
〔方法論としては〕 運動方法、運動技能論(技術と能力、知、情、意) コーチング(技術、作成)、トレーニング(体力、筋力、敏、巧、調、軟)等を実践の場に実習として実技を考えて行く。

〔実技を考える場合には〕 運動の効障害論をはじめ人間の運動、つまり動くということについての自然な考え方を編成し具現化して行く考え方と、健康や体力増強のための人為的に構成する徒手体操等の三つに分類でき、そのような材料をつかって生の充実に向けてレクリエーションがどのように編成されたならばレクリエーション教育として望ましいのか検討すべきと思う。

最後に生活科学ににしても、人間の行動科学にしても、基礎科学としては人文科学、社会科学、自然科学を基礎にしながら指導方法的研究で行く場合と、教育学、方法学的研究とがある。この二つの方法を考えた場合、日本体育大学の場合は指導、方法的研究の分野としてとらえている。

社会の要請を受けてデパートメントして行くところの授業科目と学問的体系の中では、レクリエーション学をどのように展開して行くか、これら両方の組合せの中で社会体育またはレクリエーション学科の教科課程をみる必要がある。またそれを教育のかたちではどのようにプログラムして行くか、それぞれの大学にまかせており、一方では独自性が期待されていると思う。

しかしながら我が国の大学設置基準にもとづいた大



②自分の趣味
 ③家庭生活や趣味
 社会組織への帰属感 ①国際社会
 ②趣味スポーツの同好会
 ③地域社会

消費生活
 重点消費支出項目
 若年層 ①スポーツ等能動的レジャー
 ②ファッション、おしゃれ
 ③旅行
 高齢層 ①趣味・芸術
 ②旅行
 ③住居、空間の充実、美化
 全 体 ①趣味
 ②旅行
 ③スポーツ等能動的レジャー

健康、医療
 ①包括医療体制の確立
 ②地域医療体制の整備とシステム化
 ③老人医療・福祉の充実
 重要となる問題

教育、余暇
 学校教育……地位はあまり変化しないが、学校の機能は大きく変化する
 地域における社会教育活動が盛んになる人々が求める教育内容
 成人男子 ①知識、教養 ②職業技術
 ③健康、体力
 成人女子 ①知識、教養 ②芸術、趣味
 ③家庭、日常生活
 高齢者 ①健康、体力 ②芸術、趣味
 ③知識、教養
 求められる余暇
 (男性)
 ①趣味、社交的スポーツ ②日曜大工、園芸など
 ③健康増進 ④海外旅行
 (女性)
 ①美容、健康増進 ②ボランティア活動、③海外

旅行 ④趣味、社交的スポーツ

労働
 週休制度……完全週休2日制
 (予想実施率) 官公庁 88.4%
 学 校 76.7%
 金 融 90.7%
 夏季休暇……10日程度
 産業構造……サービス業 48.6%

新しい分野の拡大
 対個人サービス……スポーツ、文化等レジャー、家事代行
 対事業所サービス……情報処理、エンジニアリング
 公共サービス……医療、教育、福祉
 自由時間……34% (1980年は約7時間10分、2000年には約8時間10分)
 国民総自由時間——9億3,000万時間

家族生活
 家族機能が見直され、一部の機能が回復したり、新しい機能が生れる。
 ①教育、しつけに関する機能
 ②相互扶助に関する機能
 ③レジャーに関する機能

注1. この調査はデルファイ法によるもので第1回調査は56年7月第2回は56年9月に実施された。
 2. 経企庁編「図説2000年の日本」日経新聞社、57年10月発行も参考にした。

II レクリエーションに関する専門教育を必要とする分野

(ここではレクの専門教育をする大学があったと仮定し考えてみた。)

野外レクリエーション関係、社会教育関係(含社会体育)、青少年教育関係、社会福祉関係、司法関係、医療関係、一般企業関係、スポーツ、レジャー産業関係、観光関係、民間青少年団体および各種団体、健康保険組合関係など、等が考えられる。その他学校教育関係、や私企業、機関、組織など、将来可能と思われる分野である。

Ⅲ 主な分野の現状—レク専門教育とかかわりのある組織—

1. 社会教育関係 (含社会体育施設)

機 関	施設数	職員	資格など
教育委員会	3,335	7,212	社会教育主事
公民館	17,222	7,608	公民館主事
図書館	1,437	4,087	司書
博物館	28 550	1,468	()内の数字は 国立で、学芸員
社会体育施設	19,391	1,680	指導系職員
婦人教育会館	127	55	指導系職員
社会教育会館	163	64	指導系職員

(注) 上記のデータの出所, 文部省社会教育報告書
(昭和56年度) 58.4.30 発行

2. 青少年教育施設

機 関	施設数	職員	備 考
国立オリンピック記念	1	13	(S57.現在)
青少年総合センター			
青年の家(国, 公計)	257	882	
少年自然の家(国公計)	133	431	
児童文化センター	27	107	(公立)
勤労青少年福祉施設	980		
勤労青少年が利用できる施設	513		いこいの広場 いこいの村 (27カ所)
児童厚生施設	7,398	10,937	児童厚生員 (国公立)

(注) 総理府, 青少年白書57年版, 58年1月。

3. 野外レクリエーション

機 関	施設数	備 考
レジャーランド	218	観光白書58年 P 267 ~ 268
簡易保険関係	7	
自然公園	375	
公的野外レクリエーション(観光)関係	991	

(注) 総理府, 58年版観光白書58.5, 総理府57年
版青少年白書58.1 などから作成

4. 社会福祉関係 (S57.10. 現在)

機 関	施設数	指導系専 任職員数	備 考
福祉事務社	1,172	3,583	
査察指導員		2,637	
児童相談所	164		児童福祉司
身体障害者更生相談 所	62		
婦人相談所	47		
老人福祉施設	3,968	3,358	
身体障害者更生援護 施設	274	867	
他の福祉施設	1,414	488	
児童福祉施設	878	5,026	
精薄者更生施設	617	9,068	
母子福祉施設	81	2	

(注) 厚生統計協会, 国民の福祉の動向, 厚生
の指標増刊号, Vol. 30 - No.11 58.9より作成。

5. 司法関係 (S57年現在)

機 関	施設数	職員数	備 考
少年鑑別所	55	805	教官
少年院	60	2,211	教官
婦人補導員	3		
刑務所, 拘置所	189		

(注) 57年版青少年白書, 58年1月。

6. その他の分野

機 関	施設数	職員数	備 考
一般企業	9,804		
病院	9,224	102,103	技術員
自衛隊			

(注) 1. 総理府, 日本の統計昭和58年, 58年10月
2. 他の分野については資料不足のため, こ
こでは省略する。

Ⅳ 課題となる事項

(1) 将来の生活展望においても, 可能性のある分野
においても, その需要が大きい。しかし, それぞれの
分野における啓蒙が, システマチックに行われる必要

がある。

(2) 現状からみて、レクリエーションプロパーの専門職の需要は限られている。専門教育における major, minor 制の導入が必要となろう。

(3) 大学における専門教育は指導者養成のイメージから脱却し、いわゆる Leisure Service Career として教育を徹底させる必要がある。

(4) 指導者の資格については、将来において、より細分化される可能性がある。

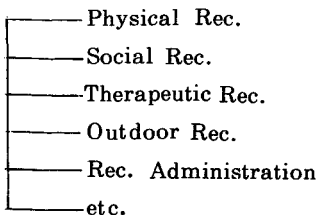
例. 余暇教育士, 交流開発士, レク療法士など

(5) 専門教育の構成は、行動科学の範に属し、純粋に余暇を研究する立場と、その応用および実践の立場の2方向性をもたせることが望ましいと思われる。

例. 余暇科学科 (Leisure Science)

余暇学専攻 (Leisure Study)

余暇教育専攻 (Recreation)



可能性は数限りなくある。学ぶものの意識の問題。教える側の意識、それと受入れ側の意識、この三者の意識が、どれだけ、どこで一致をみることができののか、そのあたりを今後検討してみる必要があると思われる。

〔Ⅲ〕

田中 祥子

アメリカでは1855年ボストンの砂場運動から始まったといわれている。産業革命の人々が多く集まって来て子ども達の健康問題がとりあげられた。砂場で遊ばせるためのプログラムを持ち、当時ドイツでも幼児教育運動が行われており、これらがきっかけとなって、レクリエーション運動が始まったといわれている。

もともとレクリエーションは外で遊ぶ、子ども中心の活動であった。

1805年シカゴにレクリエーション公園ができ、そこに施設が作られることによって、レク運動の内容も変わって来たのである。外で遊ぶ活動から、技術的なもの文化的なものがプログラムの中にとりあげられるようになったのである。そのような径達を持ちながら、1911

年ブレイブランドから全米児童遊園レクリエーション協会と改称した。

1914年には、体育の中にレクリエーションの学習はぼつぼつ始まって来た。1926年全米児童遊園レクリエーション協会が指導者のための養成コースを設け毎年1年間に300人の指導者を育成して社会に送り出した。これは35年まで継続されたのである。しかし、これでは十分な指導者を育成することはできない。もう少し高等教育の中で、養成することがよりよいのではないか、ということから、1937年ミネソタ大学でレクリエーター養成に対する会議がもたれたのである。実際にレクが本当の位置を大学で占めるようになったのは第二次世界大戦後であり、一般の人々がレクを理解するようになったのは、1950年以降である。今回でも完全とはいえないであろう。1965年すでにこの頃アメリカではレクの専門コースを持っている大学は60校にもおよんでいた。現在では350位になっている。これらの教育を受けた卒業生の60%は公共施設に、フル・タイムのリーダーとして勤務するのである。

※教育内容について

アメリカ・カナダのレク教育のカリキュラムをみると、保健体育レク科、保健体育レク学部というのがあり、その中にレクの専門コースがある。学部は教育学部に属していたりすることもあるが大半は体育系にある。最近の資料から以下三つの大学を紹介する。

イリノイ大学(ウルバナ・シャペン) College of Applied Life Studies (応用生活科学科) 余暇研究科

(1) 必修科目 () 数字は単位数を現わす。

余暇研究入門(3) 余暇サービス提供の基礎(2) 治療レク入門(2) スーパーバイザーの方法と理論(3) 実習(2) 余暇研究調査(3) 管理入門(3)

(2) 分野別必修科目 (野外レクの企画、運営)

野外レクリエーション入門(3) 野外レク実習(2) 野外レク運営(3) 公有地やレク利用(3)

(3) 関連科目

公園設計の原理(2) 森林レクリエーション(2) 天然資源の保護等(3)

(4) プログラム運営

余暇活動における指導法(3) レク・プログラム展開(3) 都市における余暇組織(3) 遊びの理論(3) レク・プログラムの企画、評価(3)

(5) 関連科目

救急法(2) 公園設計の原理(2) 森林レク(2)

〔6〕治療レクリエーション

治療レクの臨床的見地(2) 治療レク原理(3) レジャー・
カンセリング(3) 身体障害者, 精神病, 情緒障害者,
発育不能者, 高齢者のレクから一つ(3) レク・プログ
ラムの企画の評価(3)

〔7〕関連科目

救急法(2) 特殊児童(3) 運動学(3) 児童心理学(3)
異常心理学(3)

〔8〕プログラム運営の場合

関連科目として次の中から4つ選んでもよい。会計
学の基礎(3) 広告入門(3) 経営学入門(3) コンピュ
ーター入門(3) 金銭, クレジット, 銀行業務(3)

〔9〕その他

キャンプと野外教育, 水辺のレク・プログラム, 余暇
教育, 身体活動とスポーツの小集団分析, 野外教育と
レク, 余暇社会学, 特別問題研究

一般教育科目51~52時間, 必修科目28時間, 分野別
必修科目14時間, 関連分野12時間, その他20時間, 計
126時間

ウォータールー大学(カナダ) Human Kinetics,
Leisure Studies (人間運動学と余暇教育)

〔1〕必修科目

余暇レク研究入門, 余暇サービス入門, 余暇と社会
科学, レク機関の組織と管理, 野外レク入門, 特殊レ
ク入門, 余暇教育と統計学, 余暇調査と研究, レクと
余暇セミナー, 研究課題

〔2〕分野別必修

(1)余暇研究 あそびの理論, 余暇哲学, 余暇社会学
観光と旅行, 余暇行動の精神力学

〔3〕野外レク資源運営

レク企画原理, 野外レクの原理, 公園運営Ⅰ, Ⅱ,
現状の問題

〔3〕レク管理, レク運営

レクと地域, レク企画の原理, レクプログラムの評
価, 公園運営, レク施設の企画

〔4〕治療レク

あそびの諸説, レクと精薄者, レクと身体障害者,
レクと精神衛生, 余暇と老い

〔5〕その他

スポーツ社会学, 余暇史, レク・プロ展開キャンプ
と野外教育管理, 学校レク, 社会心理と身体活動, 野
外レク原理, レクにおける野外教育, 余暇と原理

カリフォルニア大学(チコ) Dept. of Leisure and
and Recreation Studies

教育・体育学部, レクリエーション管理

〔1〕必修科目

社会における余暇とレク, レクにおける指導法とス
パービジョン, レク公園管理, 実習

〔2〕分野別必修

(1) 地域レクと余暇事業

特殊レク入門, スポーツと身体レク, プログラム企
画と基礎, 野外レク入門, レク予算と財政, 余暇サー
ビスのPR

(2) レク政策の運営

レク環境の企画, スポーツと身体レク, 文化的, 社
会的, 創造的なプログラム, これらの中から3つ撰択
(3) 治療レク

特殊レク入門, 特殊レク, プログラムの企画, レジ
ャー, カウンセリング, 治療レクの方法(レク予算と
財政, レクとPR, 解剖学, 生理学, カウンセリング
心理学, 異常行動と社会学, 以上の中から3つ撰択)

〔4〕公園, 天然資源管理

レク環境の企画, レク施設, 空間の維持, レク施設
の設計, 野外レク原理, 環境教育, (レク予算と財政,
土壌, レクと天然資源管理, 調査法, 天然資源経済学
以上の中から3つ撰択)

全体を通して, 一般教育科目が多いのは, レクが人
と人との交流の中で人間性の回復をはかる運動である
ということから, 基礎教育を大切にしている理由がある。
数値からみると, 一般教育科目50%, 専門25
%, 関係のある撰択が15%という編成であった。

日本の場合社会教育に携さわっている人たちは, レ
ク教育という言葉に置きかえてもよいと思う。しかし
レクというとダンスして, ゲームをして, 遊んでとい
うイメージが強く, 実際はレクリーダーとして, 仕事
をしながら自分はレクリーダーであるという意識を持
っていない人が多い。